

中学校国語言語活動研究部

I 研究主題

思いが共有できる発表の場をめざして～質問を取り入れたスピーチの学習～

II 主題設定の理由

現行の学習指導要領から「伝え合う力の育成」が目標に掲げられ、「話すこと・聞くこと」に関わる学習が重視されてきた。年間に少なくとも1度はスピーチの場が設定され、生徒はクラスの仲間の前で自分の思いを語るということを体験している。「自分が伝えたいことを話せたか。」「友達の話聞くことができたか。」といった、「伝える力」「受け取る力」それぞれについては、体験を重ねることを通して身に付いてきた。しかし、これはあくまでも一方通行であり、「伝え合う」という点については十分とは言えない。

「伝え合う力」を身に付けていくためには、「自分が話したいこと」を話すというだけでなく、話し手は聞き手を意識し、聞き手の興味・関心を理解したうえで話さなければならない。また、聞き手についても、単なる「話を聞く」という活動から、話を聞くことを通して「話し手を理解する」といった意識まで高めていかななければならない。そこで、話し手が聞き手の興味・関心を知る場、聞き手が話し手の思いを理解する場の設定が不可欠となる。

そこで本研究部では、どの学習段階で、どのような場の設定が、話し手と聞き手の思いの共有に有効なのかを、スピーチの学習の中で検証していくこととした。

III 研究の内容

1 話し手と聞き手の思いを共有するための具体的手立ての検討

話し手と聞き手の思いを共有するために、次の二つの段階で場を設定し、具体的手立てについて検討した。

① 【スピーチの内容を考えるとき】

「話し手が聞き手の興味を知る場」として、

→ **手立て1** 「質問タイム」を設けること。

② 【スピーチ発表時】

「聞き手が話し手の思いを理解する場」として、

→ **手立て2** スピーチ発表会で「質問コーナー」を設けること。

2 検証授業・授業研究

7月中…本番の「質問タイム」につながるよう、ゲーム感覚の「3分間質問ゲーム」を実施。(中央中 清水幸子教諭)

9月3日…**手立て1**「質問タイム」の検証授業実施。(向陽中 富井直子教諭)

9月15日…スピーチ発表会において**手立て2**「質問コーナー」の検証授業実施
(向陽中 富井直子教諭)

11月12日…**手立て1**「質問タイム」の研究授業実施(中央中 清水幸子教諭)

12月1日…スピーチ発表会において**手立て2**「質問コーナー」の研究授業実施
(富岡中 亀山裕司教諭)

IV 実践例

第1学年 国語科学習指導案

第2時 指導者 清水 幸子（中央中学校）
第4時 指導者 亀山 裕司（富岡中学校）

1 教材名

わたしの思いを伝えたい（スピーチ）

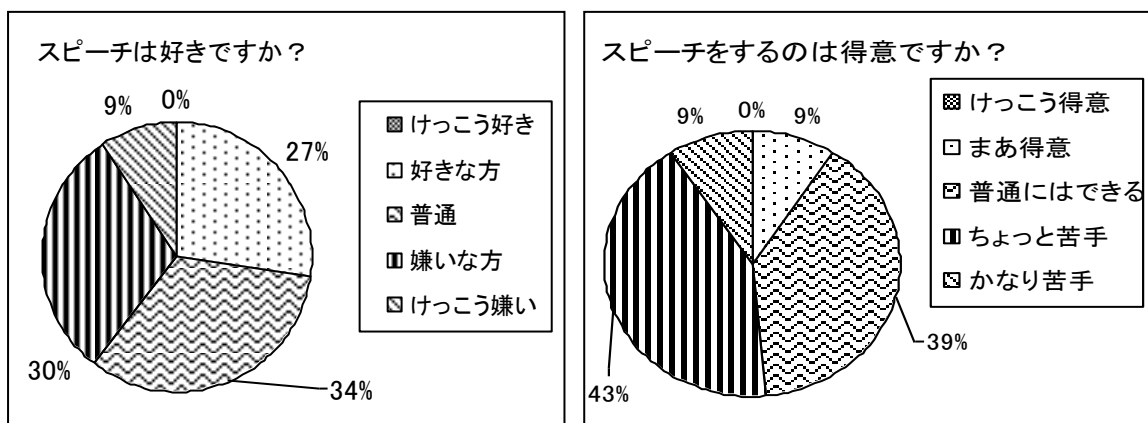
2 生徒の思いや願い（中央中学校）と本教材の意図

本学級の生徒は真面目で、与えられた課題には真剣に取り組む。学力の高い子が多く、難しい課題にも意欲的に取り組む。また、発問の時には多くの子が手を挙げるなど、学習に対しても前向きである。

事前アンケートをとり、スピーチ学習について調査してみた。

〔事前アンケート1〕の結果では、スピーチの好きな生徒は全体の約4分の1、「スピーチが得意」という生徒は全体の9パーセントと、スピーチに肯定的な気持ちを持っている者は少ない。一方、「嫌い」「けっこう嫌い」を合わせて39%、「ちょっと苦手」「かなり苦手」を合わせて52%と、スピーチの学習が生徒にとってかなり負担になっていることが読み取れる。

苦手な理由は様々だが、「話す内容を思いつかない」「話すことが苦手」などが主なものである。友達の助けを借りて話す内容を考えたり、話すことに自信が持てるような経験をさせたりする等、苦手意識を克服するような活動の工夫が必要である。



〔事前アンケート1結果〕

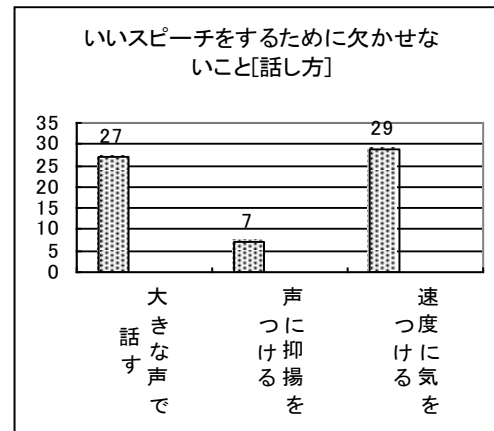
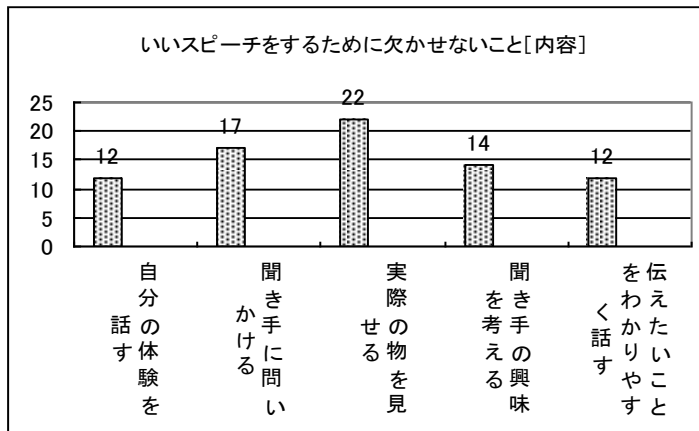
〔事前アンケート2〕では、話し方に関しては大切であると挙げた生徒が非常に多く、速度や音量に関しては、ほぼ全員の生徒が意識していることがわかる。また、「いいスピーチをするために欠かせないこと」として「実際の物を見せると良い」と考えている生徒が多いことから、小学校において、さまざまな形態をとりながらスピーチの体験をしてきたことが見て取れる。

しかし、スピーチ学習においては、話し方・プレゼンの仕方だけでなく、何を伝えたいのかを、はっきりさせることが大切である。〔事前アンケート2〕によると、内容面においてはさほど意識は高くなく、聞き手を意識することや、自分の伝えたいことをしっかり伝えるという考えは薄いようである。そこで、意図的に他の人から質問を受ける時間を設けることで、他の人の興味関心事を知り、聞き手を意識した内容を選択するようにしたいと考えた。そうすることにより、自分で考えた事柄だけではない、多面的角度から考えられたスピーチが可能になると思われる。

ただし、このようにして行うスピーチも、話し手からの一方通行だけでは充実感が薄れて

しまう。そこで、意図的に聞き手から感想や質問を言わせることにより、スピーチ内容の一層の充実を図りたい。

このような手だてにより、「スピーチは話し手と聞き手が共に主役となって、初めてよいものになる」ということを生徒達に感じさせたい。



[事前アンケート2結果 単位：人/33人]

3 教材の目標

- (1) 日常生活の中から話題を選び、自分の考えや気持ちを進んで表現しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 聞き手の興味関心をふまえながら、自分の伝えたい思いを工夫して話すことができる。
(話すこと・聞くこと)
- (3) 話し手の意図を考えたり自分の考えと比べたりしながら聞き、共通点や相違点を探ることができる。
(話すこと・聞くこと)
- (4) 話す速度・音量・間の取り方などに注意し、聞き手の反応をふまえながら話すことができる。
(言語事項)

4 単元計画(6時間扱い)

時数	学習活動	学習内容	具体的な評価規準
第1次 お互いに質問をしあうことでスピーチする内容をしぼる。			
1	○学習のめあてと授業の流れを知り、スピーチの内容を考える。	○学習のねらいの把握 ・聞き手を意識したスピーチ ・自分と話し手の考えの比較 ○学習計画の把握 ○話題の決定 ・身の回りからの話題探し	●自分の身の回りを振り返りスピーチの内容を決めているか。
2 (本時1)	○お互いに質問をしあい、聞き手の興味・関心のある事柄を知る。	○グループ内での質問 ・話題に関する聞き手の興味 の把握 ・話す内容の充実化	●積極的に相手に質問をしているか。 ●自分のスピーチに対する、聞き手の興味関心事を知ることができたか。
第2次 聞き手の興味関心をふまえ聞き手を意識してスピーチをする。 話し手の意図を考え、自分の考えと比べながら聞く。			
3	○質問されたことを参考に、自分のスピーチの構成を考え、スピーチメモを作る。 ○班内で練習をし、お互い聞き合う。	○スピーチメモの作成 ・話す事柄の決定 ・話す事柄の順序決めと柱立て ○班内での練習 ・本番発表に向けて練習 ・話す際の注意事項の相互確認	●スピーチメモを柱立てで書いているか。 ●スピーチメモを元に聞き手を意識してスピーチできているか。 ●発表者に対し質問・相互評価できているか。

4・5 (本時2)	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体の前でスピーチを行う。 ○スピーチを聞き、発表者が伝えたいことを考える。 ○スピーチに対し、質問や感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチの発表 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識したスピーチ ○話し手の意図の把握 ○話し手に対しての質問、感想発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●聞き手を意識してスピーチできているか。 ●話し手の意図を考え、積極的に質問や感想を発表できたか。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会を振り返って、共感できたこと、発見したことなどをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとの比較 ・新しい発見等の記入 	<ul style="list-style-type: none"> ●発表会を振り返り、共感したことなどを考えしっかりとまとめているか。

5 本時の学習(2/6 指導者:清水幸子)

(1)本時のねらい

- 質問をしてもらうことで、聞き手の興味関心を知り、自分のスピーチ内容の充実を図ることができる。(話すこと・聞くこと)
- 相手の話題に興味を持ち、質問をすることで、相手に聞き手の興味を知らせることができる。(話すこと・聞くこと)

(2)指導の実際

学習活動	学習内容 (○) 指導・援助(※)と評価(●)の創意工夫	分
1、本時のねらい・進め方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいの把握 <ul style="list-style-type: none"> ① 質問をしてもらい、聞き手の興味・関心を知ろう。 ② 相手のスピーチ内容に興味を持ち、たくさん質問しよう。 ○進め方の確認(進め方のプリントを配る) <ul style="list-style-type: none"> 1, 順番の確認 2, 話題の発表 3, 質問の記入 ※一つの付箋に一つの質問を書くよう指示。 4, 質問・回答 5, 付せん紙を相手に渡す。 ※この質問を参考にして、スピーチの原稿を作り、また内容を充実させていくということを伝え、たくさん質問をしてあげようという伝える。 ※班内の人全員に聞こえるような声でやりとりをするよう注意する。隣の人とだけで会話を終わらせないようにさせる。 ※いくつ質問をしたかも評価に入れるので、確認しておくよう指示する。 	5分
2、班ごとに質問を始める。	<ul style="list-style-type: none"> 班長の指示で、プリントの流れに沿って班ごとに質問を始める。 ※机間指導を行いながら、スムーズに進んでいるか確認する。 ※時間が遅れている班には適宜指示を出す。 ※早く終わった班は、全体で質問を出させる。 ●きちんと質問を考え、相手に聞こえるように質問しているか。 【話す能力】(観察) →声が小さくて聞こえない場合は、大きな声で話すよう指示。 無理そうなら、他の人が近づいて聞き取るようにさせる。 ● 質問された内容に関して、しっかりと答えているか。 【聞く能力】(観察) →いい加減に答えている生徒には、質問をしてくれた人のことを考えるよう指導する。 	35分
3、書いてもらった付せん紙を分類し、プリントに分けて貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ○付せん紙の分類分けの仕方 ○小見出しをつけること 	10分

	※項目分けのやり方を全体で黒板を見ながら確認する。(事前にまちがえやすい項目を書いたものを作成しておき、言葉は違うが内容は同じものを一緒にできるように、分類分けの仕方を例示する。)	
--	--	--

6 本時の学習 (4/6 指導者: 亀山裕司)

(1) 本時のねらい

- ①話し手の意図を考えたり、自分の考えと比べながら聞いたりし、共通点や相違点を整理することができる。(話すこと・聞くこと)
- ②話す速度・音量・間の取り方などに注意し、聞き手の反応をふまえながら話すことができる。(話すこと・聞くこと)

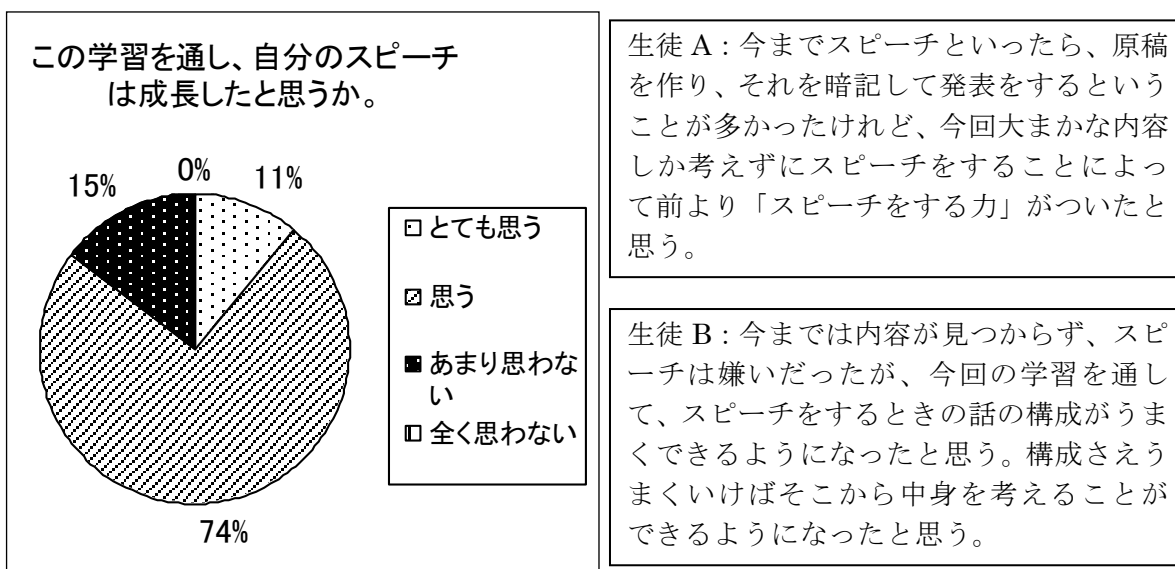
(2) 指導の実際

学 習 活 動	○学習内容 指導・援助 (※) と評価 (●) の創意工夫	分
1、本時のねらいと進め方について確認する。	<p>○ねらいの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手の意図を考えたり、自分の考えと比べたりしながら聞き、共通点や相違点を整理しよう。 ②話す速度・音量・間の取り方などに注意し、聞き手の反応をふまえながら話そう。 <p>※資料 ねらいを拡大したものを提示</p> <p>○ 進め方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 発表 2 質問・感想 (①次の発表者 ②他の生徒) 3 プリント記入 (30秒程度) <p>※順番は事前に決定しておく。</p>	5
2、聞き方のポイントを確認する。	<p>○聞くときのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 静かに、話し手の顔を見ながら聞く。 ② 反応をしながら聞く。(共感したときはうなずこう。) ③ 「話し手の伝えたい思い」は何かを考えながら聞く。 ④ 自分の考え・気持ちと比べながら聞く。 <p>聞き終わったら…積極的に 質問や感想を述べよう。 ※次に発表する人は、必ず質問や感想を述べる。</p> <p>資料 聞くときのポイント・よい質問とは…を拡大したもの</p> <p>○よい質問とは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「はい・いいえ」で答えられない質問 ② スピーチの内容が膨らむもの ③ みんなが興味をもてるもの <p>1回練習をさせる (各自、ねらいを意識して自分の席で練習。)</p>	5
3、スピーチ発表会を行う。	<p>○ 進め方 発表 (45秒から1分30秒程度) 質問・感想 (①次の発表者 ②他の生徒 計3人程度) プリント記入 (発表者が伝えたい思い・共感したこと・発見したこと)</p> <p>●ねらい②を意識して発表しているか。【話す能力】(観察) → ねらい②を意識して発表している生徒は評価し、優れている点を具体的に全員に知らせる。 → 聞き取りにくい・聞き手の反応をふまえていない・態度がよくない、などの生徒には、程度により途中で止めて、具体的な改善方法を指導する。</p> <p>●しっかり話を聞き、質問をしようとしているか。【聞く能力】(観察) → 私語をしている生徒、発表に集中していない生徒には、どの</p>	35

<p>4、本時の学習のまとめと次時の予告をする。</p>	<p>ように聞いたり質問したりすればよいかを再度確認する。 ※生徒の質問の様子に応じて、手本となるような質問をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自己評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し手の「伝いたい思い」を考えながら聞くことができたか。 ○ 自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を整理できたか。 ○ 必要に応じて、進んで質問をすることができたか。 ○ 話す速度・音量・間の取り方などに注意して話せたか。 ○ 聞き手の反応をふまえながら話せたか。 </div> <p>※本時の生徒の様子から、発表・質問・聞き方それぞれについて、優れた点・課題を明確にし、教師が評価する。</p>	5
------------------------------	---	---

V まとめと課題

授業後にアンケートをとり、生徒の意識調査を行った。結果は以下のグラフの通りである。また、自由記述で、成長できたと思う点も書かせた。



生徒 C：特に楽しかったのは、班内で質問をたくさんする授業で、人それぞれ色々な質問が飛び交っておもしろかった。今までのスピーチは、単に自分の伝えたいことを言うただけだが、今回は聞き手の興味や関心・聞きやすさや話の構成をしっかりと考えて取り組むことができた。次にやるなら、聞き手が興味をもってくれるような話題を探し、おもしろく、わかりやすく伝えたい。

グラフから、85%の生徒が自分のスピーチに成長を感じているということがわかる。苦手意識を持っていた生徒 B も、「質問タイム」を通して、構成や内容が考えられたと感じている。また、多数の生徒が、「発表の時間」の際の質問に触れて感想を書いており、「質問がきてうれしかった」「質問してもらってたくさん話せたからホッとした」「相手に質問ができて楽しかった」「色々な質問がされているのを聞いて、その人のスピーチがさらによくわかった」などの感想があった。

このように、お互いに質問をしあい、交流を意図的にとることにより、話し手と聞き手が一体となったスピーチを生徒達に経験させることができた。

今回は1年生をメインに考えたため日常生活から話題を選んだが、今後は2・3年生に対応し、社会生活を話題とした内容に発展させることが課題である。